



かつらぎ 葛城市

(写真提供:葛城市)



葛城市は、平成16年10月1日に、北葛城郡新庄町・當麻町が合併して誕生しました。大和盆地の南西部、奈良県の北西部に位置し、西の二上山、岩橋山、葛城山の山並みから山麓地域にかけて豊かな自然環境に恵まれ、東には国道24号線や鉄道の駅を中心に商業地、住宅地が広がります。いにしえには二上山より葛城山、金剛山の山々は、すべて葛城山と呼ばれ、その東側、葛城

川流域を含めた地域が葛城地方とされ葛城市はその中心に位置します。市の中央には現在の竹内街道といえる南阪奈道路が通り、葛城インターチェンジにて国道165号線大和高田バイパスにつながり大阪府との重要な玄関口の一部になっています。観光資源としては、當麻寺、柿本神社、笛吹神社、二上山、石光寺、竹内街道の歴史的文化遺産を中心として市内各地に古墳時代の遺跡や古い神社仏閣が点在しています。

當麻寺(たいまでら)



當麻寺は用明天皇の皇子麻呂子王が、河内国に建てた方法藏院に始まり、その後麻呂子王の孫當麻真人国見が、白鳳期に役行者ゆかりの現在地にうつし建立されたものとされています。平安時代の末、治承4年平家の南都攻めの際に金堂が大破し、講堂は焼失してしまいましたが、間もなく源頼朝が施主となって再興しました。創建当初は三論宗を奉じていましたが、弘仁14年に空海が当寺に参籠して

から真言宗となり、のち浄土宗が興ると、當麻曼荼羅を中心とする浄土信仰の霊場として栄え、現在は真言・浄土の両宗併立となっています。境内には、国宝指定の本堂・東塔・西塔、国の重要文化財指定の金堂・講堂をはじめ、薬師堂・仁王門・鐘楼などが、独特の伽藍配置で建ち並び、塔頭も奥院・中之坊・西南院・護念院を含め11を数えます。また国宝弥勒仏坐像や當麻曼荼羅のほかにも、多くの仏像・仏画・曼荼羅など、国宝・重要文化財指定の貴重な寺宝を数多く伝えています。5月14日の二十五菩薩来迎会は、「當麻おねり」として名高く、またこのころには有名な牡丹(ぼたん)の開花期(4月中旬～5月上旬)でもあり、たいへんなぎわいを見せています。



石光寺(せっこうじ)



當麻寺の1キロ北にあり、寺伝によると、天智天皇の時代、光を放つところがあったので、見に行かせたところ仏像に似た形の石があったので、その石を刻み弥勒三尊をつかって寺を建立し、石光寺と称したのが起こりといわれています。當麻寺同様の寺も中将姫ゆかりの寺で、境内に蓮糸曼荼羅の糸を染めたという井戸(染の井)があり、寺名も別称染寺ともいいます。また牡丹の名所として知られ、春牡丹の開花期には花見客でぎわい、11月下旬～2月上旬にかけて咲く寒牡丹も見事です。また、境



内には折口信夫歌碑、与謝野鉄幹・晶子の文学碑があり、平成3年に弥勒堂建て替えの際に発見された石造弥勒仏は、現存する石仏では日本最古(白鳳時代)の貴重なものです。

